

国語の力、その伸ばし方

2017年11月

花まる学習会・スクールFC 仁木 耕平

1 教科としての国語 … よくいただくご相談から

- ①読解って、早くからやらせた方がいいですか？
- ②本を全然読みません／年齢に比べると、幼い感じの本しか読みません
- ③幼すぎて、物語文が苦手です／論説文への抵抗感が強くて…
- ④算数に比べると、どうしても国語が苦手です
- ⑤音読がつかえつかえで、聞いていて不安です
- ⑥言葉を全然知りません
- ⑦人の話を聞かなくて…／対話が成立しません
- ⑧字が汚いです／どうしても雑になってしまいます
- ⑨漢字が苦手です
- ⑩作文が書けません／意見記述が苦手です
- ⑪「これ、なんて読むの？」「これ、どういう意味？」と質問されたとき、どうすればいいですか
- ⑫定期テストの国語、全然点数がとれません

2. 豊かに生きるための国語 … 言葉をめぐる状況と、乗り越える必要があること

- ①大人として生きる中で、「ことば」をめぐって困ったこと／当たった壁

- ②今、ことばについて思うこと

●相対主義…「物事の多面性／どちらにも事情はあるよね」

- ① カール・ポパー「寛容のパラドクス」

例)

- ・クラスで、いろいろな子を相手に暴言を吐き、暴力をふるう小4男子・4人組。
(登下校時のからかい、物を取り上げて壊す、つばを吐きかける…)
- ・複数の保護者から学校にクレームが入る。
→学校から4人組の保護者に状況を伝達すると、そのうちの2人の親が学校に乗り込んできた。
「いろいろな人や先生たちからそういう目で見られて…これは偏見です！」
「うちの子がかわいそう。差別されているのはうちの方です」

★寛容な社会は、不寛容も許容すべきか？→

(男女差別・人種による差別 … 差別的な言葉を言う自由もあるはず)

★何が原因なのか

- ② 言葉の定義が簡単にゆらいでしまう (用法や書き順のゆらぎなど、それに比べれば些細なこと)

- ・転じて…言い換えの「横行」

●仮説：日本語の弱点 … 真理に向かって議論をすることの困難さ (遠さ)

- ①敬語…関係性が強く織り込まれている

- ・部下に敬語を使わない上司

- ②言葉に感情がべったり貼りつきがち (含意をさせることの容易さ／解釈の余地)

- ・そんな言い方しなくても…

- ・婉曲な言い方に込められた悪意 (配慮せよ、という意思表示)

③日本語を話す人が、日本にしかいないこと

・自分たちのありようを相対化しづらい

(翻訳された情報にしか触れられない人の多さ)

→とはいえ、ほとんどの人が「母語で思考をする」ということから逃れられない

●「家庭での良質な会話」以外に、大人ができること … 場を作る

①ブッククラブ (読書会)

・「主体的な読み手を育てる」ことを目的にしたワークショップ

・文章を読み、自分で問いを立てる

・立てた問いの中から、もっとも「太った質問」を選び、話し合う

・絶対的な答えを受け取る、読み取ることがゴールでは全くない。

読んだことを出発点に、自分ごととして考えることが「読むこと」であるという、読書観の転換

★まず、大人がおもしろさを体感するとよい (例: 猫町倶楽部など)

★主催する側に回ってみる

★子どもの場合、特に選書が大事 (想像を広げられて、楽しい!でも、深い…もので)

②作家の時間

・「主体的な書き手を育てる」ことを目的にしたワークショップ

・本物の作家になり切る

・2か月1クールで、1作品を出版する

・ファンレターと振り返り

③ビブリオバトル (おすすめブックトークバトル)

・「おすすめ本」を1人3分 (中学生以上は5分) でみんなにプレゼン

・時間は使い切る、原稿や資料は見ずに話す、必ず勝敗を決める (優勝を決める) のがルール

・「本当に好きなもの、いいと思っているもの」については、言葉がどんどん湧き上がってくるウソのない「伝えたさ」がある。

・多様性にふれる…さまざまな本があること、さまざまな好みや価値観があること

・中3の実践

・小4の実践

④低学年にできること

・読み聞かせ (高学年もあり!アンソロジーや短編がおすすめ)

・言葉であそぶ、文字に親しむ

資料①

仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アフリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアにおもに広がっている。

オセアニアに広がっているのは()である。

A ヒンドゥー教

B キリスト教

C イスラム教

D 仏教

	公立中学校	中高一貫学校 (中学)	公立高校
A	0%	0%	0%
B	%	%	%
C	%	%	%
D	%	%	1%

出典: 東京書籍 中学校社会教科書『新しい社会地理』56p

資料② 龍井・強弁の類型 … 「こし餡が好きです」に対して

発話者の悪意への歪曲

つまり粒あんしか売っていないような店は、潰れればいいということですよ。

本人以外にとっては不必要な立証の要求

あなたの言う「こし餡」が実在するということを、まず証明してもらえませんか。本当にあるならばの話ですが。

劣等感にもとづく解釈

あんこの違いが分かるような所得層の方は、違いがわからない私たちみたいな庶民を見下してるんですよ。

無意味な比較

そもそも、こし餡より白米の方が必要ですよ。

過剰な形容

粒あん好きの私の前でこし餡が好きなんて言い放つ無神経さに、心底寒気がしました。

不毛な一貫性の要求

粒あんよりこし餡がいいと主張するなら、小粒納豆よりひきわり納豆がいいとも主張するべきでは?

資料③

こうして私たちは、「善」の意味が短期的に変わっていく社会のなかに身をおくようになった。主導権を失えば、昨日の善は今日の悪になる。そしてそれは共有された世界が失われた時代の必然的な結果であった。

善悪は、もともとは、共有された社会がつくりだす共有された規範であり、人間がつくりだすものというより、共有された世界がつくりだすものである。(中略)そしてこの共有された善悪の世界を近代社会が解体し、最終的には善悪は個人の判断へと分解していったのである。

だがそのとき、多様な善悪の基準がうまれたわけではなかった。たえず一時の主導権を握ったものが自己を善として振る舞い、多数派は自己防衛的にその善に従うことによって、それがあたかも善であるかのごとく力を発揮する時代がつくられたのである。

この構造が扇動屋の時代をつくりだした。主導権を握るための扇動が何よりも重要になったのである。そして有効な扇動のシナリオを書く企画会社の役割が大きくなった。何が善で何が悪かではない。どのように扇動したら主導権がとれるか、である。その結果主導権をとるために扇動した内容が、主導権を確立したあとは善として主張されることになる。

こうして現代社会は、善が不在ともいえる社会をつくりだしてしまったのである。善が主導権の変更によってたえず変容する時代、といってもよい。ゆえに善の側にしようとするなら、私たちはたえず主導権をとった側に、多数派に身をおかねばならなくなった。扇動によって生まれた多数派の側に身をおくようになったのである。

(中略)

まるで共同幻想のように何か生まれ、また新しい共同幻想が発生してくる。そして私たちは共同幻想のなかに身を置こうとする。とするとすべては失われていることにならないか。ゆだねること、同調することによって自己を失われた存在へと落とし込んでいく。そのことによって自由に生きる自己を再確立する。それが私たちの時代に与えられた生き方である。

ただし今日とは、このような生き方が限界にきた時代なのだと思う。多数派の側にいけば、すなわち主導権を握った者たちがつくりだす「善」に同調していれば、自己を防衛できる時代は終わろうとしている。「普通であること」によって自分を守ることができない時代がはじまった。

(中略)

しかもその変化が短期間でおこっている。とすると私たちは「悪」の時代に生きていると言った方がよいのかもしれない。なぜなら変化に対応する時間量を保証しない変動は、人間にとっても自然にとっても「悪」でしかないからである。

すべてを失ったがゆえに自由である時代が終わり、「悪」に翻弄される時代がいま私たちの前にはある。